



夢に向かって

責任感のある強い大人になりたい——

渡邊 ^{ももか} 桃花さん (県北中3年)

第22回

私の将来の夢は、医療系の仕事に就くことです。”これ”といった仕事が決まっているわけではありませんが、人を助けることができる仕事がしたいと思っています。

コロナ禍のとき、医療従事者の方たちが、患者さんや困っている人のために全力を尽くす姿をニュースなどで見て憧れを持ちました。私もこんな仕事をしてみたいと思うようになりました。

今はとにかく、高校入試に向けて受験勉強を頑張っています。進学してたくさん知識を身に付けないと、夢

を叶えることはできないと思います。理系の勉強が苦手で、特に数学は集中して学習に取り組んでいます。高校に入学しても、大学進学などの将来のために勉強を頑張りたいと思っています。美術部では部長を務めていましたが、始めは部員に指示を出すことが苦手で苦労しました。部長の役割にも徐々に慣れてきて、自分に自信を持つことができました。絵を描くことが好きなので、高校でも美術部に入部してみたいです。

大人になったら、責任感のある人になりたいです。そして、何事も自分でしっかり考えて行動し、自分の人生は自分で作り上げていきたいと思っています。



編集
発行

国見町



〒969-1792 福島県伊達郡国見町大字藤田字一丁田二-1-7
TEL 024-585-2111 FAX 024-585-2181
E-mail: some@town.kumini.fukushima.jp URL: www.town.kumini.fukushima.jp



町長
コラム

ま
真こらむ

【第31回】

国見の真心と恩返し

緊急地震警報が鳴る。穏やかな元日が一変。日を追うごとに悲しみが増すニュース映像は、能登の人たちへの思いを募らせる。

思い出す。そして想像する。東日本大震災と原発事故、水害、2度の大きな地震。着の身着のまま避難所に向かう。高齢の親を気遣い、避難所に入らず一緒に車中泊する。水も電気も食料もないまま氷点下の夜を過ごす。人手と水、医薬品が足りない病院。余震と寒さに震える心と体…。私たちの「あのとき」がよみがえる。

少しでも力になりたいと国見町が備蓄してるシート、アルファ化米、お粥、防災ゼリー、水の提供を石川県に、町職員派遣を福島県に申し出る。「義援物資が殺到。調整に時間が必要。改めて連絡します」と石川県。「国見町職員2人は、25日から31日まで富山県氷見市へ派遣をお願いします」と福島県。

公立藤田総合病院では、医師、看護師2人、薬剤師を15日から19日まで石川県七尾市の公立能登総合病院へ派遣。福島県内の病院では初。国見町が譲与した高規格救急自動車に、目一杯の薬剤、医療器材を積んで向かう。

令和3年、4年の地震で全壊、半壊世帯に800万円を超す義援金をいただいている国見町は、義援金の受け付けも始める。たくさんの人から寄せられる。小学生と中学生も自発的に義援活動をする。応援の寄せ書きと一緒に。

被災のたびに私たちが勇気づけられたことを多くの人がしてる。恩返ししてる。国見の優しさにほっこりする。私たちがそうだったように「いつまで続くの?」と不安が尽きない能登の人たちに、国見の心を寄せてる。



▲全国から支援に駆け付けた派遣職員の皆さん(氷見市)

引地真